

(2) 様式第7号-2 (報告書)

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業報告書

プログラム名	特別な教育現場へのフィールドワークを通して新たな教育課題に対応する実践力を育むプログラムの開発
プログラムの特徴	教員養成の高度化を志向するにあたり、学部段階では養成しにくい小中一貫校や中高一貫校での教育課題に対応する力量や、へき地・小規模校に特有の教育課題を積極的に解決していく実践的指導力等を育成するために、そうしたフィールドへ実地視察しつつ、課題解決の戦略を具体的に検討していく演習を通して、より高度な知識と実践力を育むプログラムを開発する。こうしたプログラムを教職大学院の授業に組み込むとともに、長野県の教員育成指標に対応する研修内容として位置づけ、これまで重視されてきたとは言い難い領域の資質向上に貢献する教員研修プログラムを提供できる。

平成31年3月

機関名 国立大学法人信州大学 大学院教育学研究科高度教職実践専攻

連携先 長野県教育委員会

プログラムの全体概要

◆特別な教育現場へのフィールドワークを通して新たな教育課題に対応する実践力を育むプログラムの開発

研究の目的： 教員養成の高度化を目指して学部での教員養成教育では育成しにくい資質能力を高める取り組みとして、へき地・小規模校に特有の教育課題を積極的に解決していく実践力や、小中一貫校や中高一貫校等での教育課題に対応できる力量を高めるための研修プログラムの開発に取り組む。そのための方法として実際の現場でリアルに学ぶためのフィールドワークのあり方を具体的に検討することが本研究の目的。

信州大学教職大学院のフィールドワーク



新しい時代に求められる教育観
 少子・人口減少時代の教育課程を
 未来志向で考えるフィールドワーク

1. 「特色ある教育課程の編成と評価」(必修科目:2単位)

- 特色ある教育課程を編成してユニークな教育実践をしている学校の具体的な取り組みを通して、教育課程の編成に関する理論を深め、「教育課程の特例申請」文書を作成できる力量を身につける。

2. 「へき地・小規模校の教育実践」(選択科目:1単位)

- 中山間地域を中心とするへき地・小規模校の少子・人口減少問題とそれに直結する学校教育の課題を理解するとともに、小規模校ならではのユニークな教育実践についてフィールドワークを通じて具体的に理解する。

◎フィールドワークはこの他の授業でも実施しているが、「特色ある教育現場」を選んで行っているのは以上の2科目である。

これら二つの授業を中心に
 フィールドワークを導入する

これらの有効性を教職大学院の実践を通して実証し、
 教育委員会の研修講座に
 導入して単位互換を図る

	月/日	曜日	時間帯	場所	内容
◎	4月29日	日	10:40~12:10	N101	【講義・演習】教育課程行政の最新事情
◎	6月3日	日	9:00~10:30	N101	【講義・演習】学ぶ側の論議で考える教育課程(仮称)
1	6月9日	土	8:00~16:00	奈良女子大学附属小学校	学習研究会(公開研究会)への参加 信の学びを支え、つなげる「奈良の学習法」～深い学びの授業デザイン～
2	6月15日	金	8:00~16:00	富山市立堀川小学校	ふだんの授業の参観+研究協議+懇親会
◎	7月1日	日	13:00~16:10	E504	【教職大学院公開セミナー】 子どもの自律的学習を創り出す教師の教育観
3	9/10(月)~9/14(金)			つくば・教職員支援機構	「カリキュラムマネジメント指導者養成研修」受講
4	9月14日	金	13:00~17:00	諏訪清陵高校附属中学校	ふだんの授業の参観+研究協議
5	11月2日	金	(1日 22:00) ~2日 13:00	奈良女子大学附属小学校	『幼小一貫教育において生活と学習をつなぎ、同年齢や異年齢で協働的に探究を深め、多様な能力や個性的な才能を引き出す「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発』<4年次>
6	10月18日	木	9:30~17:00	信濃町立信濃小中学校	長野県初の義務教育学校(校舎一体型小中一貫校)
7	11月16日	金	10:00~15:00	木曾町立三岳小学校	特色あるカリキュラム(自由進度学習/無学年制ドリル)
8	12月2日	日	8:30~12:00	教育学部E504	長野県カリキュラム開発セミナー:安彦忠彦先生
9	12月7日	金	9:30~12:30	大町市立美麻小中学校	小中一貫(義務教育学校)・コミュニティスクール
◎	1月14日	月	10:40~12:10	N101	【講義・演習】カリキュラム・マネジメント
10	1月18日	土	9:00~12:00	グリーンヒルズ小中学校	いづな山の私学の授業公開(オープンデー)の参観
11	2月2日	土	8:30~16:30	伊那市立伊那小学校	公開研究会に参加
	2月2日	土	8:30~16:30	諏訪清陵中学・高校	課題研究発表会(諏訪清陵高校SSH)
課題	12/27までに暫定案提出				課題の「下書き」提出
	2/1~2/25の間に提出				発表・活動後の最終報告の提出

フィールドワーク参加学生アンケートおよび面接調査

フィールドワークの運営手続きとその留意点の明確化

フィールドワークのDVD教材の作成

フィールドワーク研修の普及に活用

1 開発の目的・方法・組織

(1) 開発の目的

教員養成の高度化を目指して学部での教員養成教育では育成しにくい資質能力を高めるプロジェクトの一環として、へき地・小規模校に特有の教育課題を積極的に解決していく実践力や、小中一貫校や中高一貫校等での教育課題に対応できる力量を高めるための研修プログラムの開発に取り組むことにした。そうした資質能力を高めるために、机上の理論で学ぶこと以上に実際の現場でリアルに学ぶためのフィールドワークのあり方を具体的に検討することを本研究の目的とした。

(2) 開発の方法

本研究科・教職大学院における授業の一環としてフィールドワークを盛り込んだカリキュラムを試行的に実践し、参加学生の感想記録やフィールド校の教職員への聴き取り調査等を踏まえて、フィールドワークの有効性を質的に明らかにする。

また、実施したフィールドワークによる学びの中から、特徴ある教育実践を展開している学校での事例を8校選抜し、それらの学校参観において学べることを編集した研修用の映像教材を製作し、DVD教材として大学院の演習で使用できる作品を開発する。

(3) 開発組織

① 連携機関との連携状況

信州大学教育学部および大学院教育学研究科と長野県教育委員会は、かねてより包括的な連携協定を結んでおり、学部での教員養成や教員研修事業に協力関係を堅持していたが、教職大学院の開校以降はさらに連携を深め、教育委員会が主催する教員研修講座や各種有識者会議に教職大学院の専任教員が積極的に参画している。特に、教職大学院の入学定員20名のうち5名枠を長野県教育委員会からの派遣教員として確保されているほか、拠点校方式による指導体制を充実させるために大学院生が所属する拠点校には加配教員を配置するなどの特別配慮をいただいている。さらに、信州大学教育学部（大学院教育学研究科を含む）と長野県教育委員会は、すでに連携協議会等を定期的に開設しているほか、教育学部の教職実践演習の授業に指導主事等が参画する実践も5年間展開してきた。こうした実質的な連携を生かして、信州大学の教員養成カリキュラムと長野県の教員育成指標の両者を理論的・実践的に連結させた教員研修プログラム案を教職大学院の演習と連動させて実施するプロジェクトとして取り組んだ。それは、教職員支援機構の平成29年度「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業（A 教職大学院等研修プログラム開発事業）」の支援をいただいて貴重な成果を得た。その成果等を長野県教育委員会に還元し、平成30年度以降の教員研修の全体計画に反映させている。

② 組織体制

本プログラムは、基本的には本学教職大学院の専任教員が主体となり、長野県教育委員会が連携協力機関となり、随時情報を交換し合って研修プログラムを構築する体制を整えた。

研究組織として「研修企画会議」を設け、大学側から3名、教育委員会側から2名の委員が集まってフィールドワークに関わる企画および実施運営に関する諸事項を検討した。

また、研修企画会議に参加しない委員として、県教育委員会側から教学指導課長に協力を仰いだほか、大学側からは大学院教育学研究科長ほか、教職大学院専任教員全員がフィールドワークの教育効果を検討する役割として参画した。

★組織体制

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
【研修企画会議の委員】				
1	信州大学・教職大学院専攻長 教授（教育学系）	伏木 久始	研修企画会議の統括／フィールドワークの企画運営／研修プログラムの実践	
2	信州大学・准教授（実務家教員）	市川 公明	特色ある教育課程のフィールドワークの実施と研修内容の調整	
3	信州大学・講師（実務家教員）	宮島 新	へき地小規模校の教育実践のフィールドワークの実施と研修内容の調整	
4	長野県教育委員会・教学指導課指導主事	丸山 剛生	初任者教員向け研修内容の検討	
5	長野県総合教育センター・研修担当専門主事	依田 学	中堅教員向け研修内容の検討	
【研修企画会議に参加しない委員】				
6	信州大学大学院教育学研究科長	永松 裕希	大学本部及び教育長との方針の調整等	
7	長野県教育委員会・教学指導課長	佐倉 俊	本プログラムの評価	
8	信州大学教育学部附属長野小学校／長野中学校／特別支援学校・校長／信州大学・教授（教育学系）	三崎 隆	附属長野地区の教員研修のあり方検討	
9	信州大学教育学部附属松本小学校／松本中学校・校長／附属幼稚園長／信州大学・教授（教育学系）	上村恵津子	附属松本地区の教員研修のあり方検討	
10	信州大学・教授（教育学系）	酒井 英樹	フィールドワークの教育効果の検討	
11	信州大学・教授（教育学系）	西 一夫	フィールドワークの教育効果の検討	
12	信州大学・教授（教育学系）	茅野 公穂	フィールドワークの教育効果の検討	
13	信州大学・教授（教育学系）	畔上 一康	フィールドワークの教育効果の検討	
14	信州大学・准教授（教育学系）	青木 一	フィールドワークの教育効果の検討	
15	信州大学・准教授（教育学系）	林 寛平	フィールドワークの教育効果の検討	
16	信州大学・准教授（実務家教員）	谷塚 光典	フィールドワークの教育効果の検討	
17	信州大学・准教授（実務家教員）	油井 幸樹	フィールドワークの教育効果の検討	
18	信州大学・助教（教育学系）	奥村麻衣子	フィールドワークの教育効果の検討	

③ 研修企画会議の実施

偶数月の月末金曜日を基本に、信州大学教職大学院スタッフ3名と長野県教育委員会教学指導課1名および長野県総合教育センターの研修担当主事の計5名が集まって「研修企画会議」を継続開催した。そこでは、本学教職大学院が実施するフィールドワークの計画案の説明や実施概要の報告のほか、県の教員研修講座に「信州大学教職大学院との連携講座」を新規に開拓するための議論を行った。平成31年度からは、このプロジェクトで開発された研修プログラムを充実させ、将来的には教職大学院の単位と県教育委員会の研修講座との単位互換を可能にするシステム構築への予備的連携体制を整えていくことになる。なお、本プログラムは教職大学院に所属する院生を対象者として実施したが、将来的には教育委員会と連携して一般教員が教職大学院の学生と合同でフィールドワークに参加できるしくみを検討していく予定である。

2 開発の実際とその成果

(1) 講座名 フィールドワークを通じた学び

(2) 研修の背景やねらい

信州大学大学院教育学研究科は、教職員支援機構との連携協定を最大限に生かす主旨から、同機構にて実施される短期研修講座を本研究科・教職大学院のカリキュラムに取り込む実践を行ってきたが、少子・人口減少社会が進行する長野県の小規模校化・少人数学級の増加傾向に対応する研修は、同機構および長野県教育委員会の研修において未開拓な部分が多い。また、小中一貫校や中高一貫校などの教育課題に対応する教員研修プログラムも開発が遅れている。

そこで、教員養成の高度化を目指して学部での教員養成教育では育成しにくい資質能力を高めるプロジェクトの一環として、へき地・小規模校に特有の教育課題を積極的に解決していく実践力や、小中一貫校や中高一貫校等での教育課題に対応できる力量を高めるための研修プログラムの開発に取り組むことにした。そうした資質能力を高めるために、机上の理論で学ぶこと以上に実際の現場でリアルに学ぶためのフィールドワークのあり方を具体的に提言することをねらいとした。

(3) 実施概要 (※詳細は9頁以降に掲載)

1) 中核となったフィールドワーク

- ①授業研究の先進校－その1－ 富山市立堀川小学校
平成30年6月15日(金)
- ②授業研究の先進校－その2－ 奈良女子大学附属小学校
平成30年6月9日(土) / 平成31年2月8日(金)－9日(土)
- ③授業研究の先進校－その3－ 諏訪清陵高等学校附属中学校
平成30年10月2日(火)
- ④授業研究の先進校－その4－ 伊那市立伊那小学校
平成31年2月2日(土)
- ⑤義務教育学校－その1－ 信濃町立信濃小中学校
平成30年9月28日(金)
- ⑥義務教育学校－その2－ 大町市立美麻小中学校
平成30年12月7日(金)
- ⑦へき地・小規模校－その1－ 栄村立栄小学校秋山分校
平成30年5月31日(木)
- ⑧へき地・小規模校－その2－ 木曾町立三岳小学校
平成30年12月10日(月)

2) その他のフィールドワーク

※以下の学校にも複数回参観や研究指導に参画した。

- ◆信州大学教育学部附属松本小学校
- ◆信州大学教育学部附属松本中学校
- ◆信州大学教育学部附属特別支援学校
- ◆信州大学教育学部附属長野小学校
- ◆信州大学教育学部附属長野中学校
- ◆飯田市立上村小学校
- ◆安曇野市立三郷小学校
- ◆須坂市立日野小学校
- ◆池田町立高瀬中学校
- ◆いづな学園グリーンヒルズ小中学校 など

3) DVD教材の作成（※内容の概要は21頁以降に紹介する）

フィールドワークの実践概要をコンパクトにまとめて、写真や動画を編集した研修用のDVD教材を作成した。全体構成は序論としての「プロローグ」と終論としての「エピローグ」を含め、フィールドワークの事例8校をチャプターで区切りをつけて必要な部分を選択視聴できるものに作りこんだ。撮影およびナレーション原稿の作成および字幕テキストはすべて教職大学院の教員によるものであるが、DVDに仕上げる作業は、専門の映像処理業者（コンテンツ・ビジョン）に委託した。

4) フィールドワークの方法の開発

～有効性を高めるための8つのステップ～

- * 以下のAからHまでの8項目を順番に準備していくことでフィールドワークによる学びをより有意義なものにすることができる。各フィールドに合わせて必要な手立てを考案し、その現場に行かなければ学べないことなどを吸収する臨地演習を工夫する。

A. フィールド校との日程交渉

- ・授業参観等の受け入れ可能な日程を交渉して年間活動計画の中に位置づける。
- ・教育委員会主催の研修講座に位置づける場合、通常は前年度中に計画しなければならないが、フィールドとする学校現場の事情を優先するならば、人事異動の結果をふまえつつ、学校長以下、研究主任（研修主任）等の計画を理解してから日程交渉することが望ましい。大学院の授業に位置づける場合も、年度当初の履修ガイダンスで大まかな日程を案内できるように準備することが望ましいが、具体的なスケジュール等は4月初旬に調整して選択履修が可能になるように準備しておくことが必要になる。

B. フィールド校との内容交渉

- ・教育課程の特色を理解することが主目的なのであれば管理職と教務主任等に時間を割いてもらい、学校要覧と当該年度の学校運営計画資料等をもとに説明していただく時間をとることになる。
- ・授業研究のテーマに関する実践の概要や研究体制の工夫などを理解することを主目的にする場合は、研究主任（またはそれに準ずる校務分掌を担う教員）に時間を割いてもらう。
- ・個々の授業参観をメインに研修したい場合は、短時間であっても授業者との懇談の時間をとれるような参観スケジュールを優先すべきである。単元を通してねらいを意識した授業を展開している授業者と、様々な人間関係の中で授業に参加している児童・生徒たちとの協同でつくられている授業を、断片的に1時間のシーンを観ただけでわかることは少ない。授業の事実在即して、授業者の思いと個々の児童・生徒の言動の背景を理解し合う努力が欠かせない。独りよがりの観察者になって一方的に教育実践を評論するという姿勢を排除していくためにも、授業者との対話は可能な限り研修内容に入れておきたい。
- ・コミュニティ・スクールの推進あるいは「社会に開かれた学校づくり」のためには、当該校の教職員のみならず、コミュニティ・スクールの運営協議会関係者や地域コーディネーターなどの地域住民との懇談の機会を設定することで貴重な学びが得られることが多い。

C. フィールドワーク参加者募集要項の作成

- ・日時、参観フィールド名、フィールドの特色、参加条件、参観当日の日程概要、持ち物等を整理して募集要項として公表する。遅くとも3ヶ月前には募集し、1ヶ月前には参加者名簿を参観受け入れ校へ通知できるように調整する。

D. フィールドワークのオリエンテーションの実施（メール連絡等で代替も可）

- ・オリエンテーションを実施する目的は、募集要項に従って参加を希望したメンバーがどのような顔ぶれなのかを知ること、参加人数を考慮して予定変更になることや追加される内容などの有無の確認をすること、受け入れ校から届いた当日のタイムテーブルを伝達すること、説明者および授業者の氏名やタイトル等の情報を伝達すること、持ち物や参加費等を連絡すること、フィールド先に関わる資料を配付したり調べさせたりして事前学習をすすめること、集合場所や解散場所などの連絡をすること、学校等のフィールドに足を踏み入れる際のマナーや守秘義務を守ることなどを徹底することなどにある。

参加者を事前に集めることが難しい場合は、メール等での連絡に漏れがないように受信の確認を徹底したり、テレビ会議等でオンラインでの情報共有をはかったりして、対面型でのオリエンテーションに代わる情報伝達をしっかりと行うものとする。

E. 参観校に関する事前学習

- ・学校ホームページ等でも情報を得られる場合が多いが、過去のフィールドワークの実績をまとめた資料等を公開して参加者に情報提供することが望ましい。特に、現地を参観した既修者の感想等を読ませることも有効である。
- ・本プロジェクトで作成したDVD教材を事前学習として視聴させることも有効であると考えているが、5頁に示した「中核となったフィールドワーク」には、授業研究の先進校として①～④の4校を、義務教育学校として⑤と⑥の2校を、へき地・小規模校として⑦と⑧の2校でのフィールドワークを集録しているので参考にしていきたい。こうした教材をWeb上にアップして、オンラインでの事前学習をすすめることも可能である。

F. フィールドワークの実施

- ・実際にフィールドワークに行く際には、該当の学校等の特色に関して解説できる有識者が同伴していることが望ましい。それが無理な場合、引率者が事前に該当のフィールドについて有識者から参考意見等を聴取しておくか、自ら事前に参観する機会を持つなどの準備が必要になるという意識をもって臨みたい。
- ・フィールドワークの現場に着いたら、児童・生徒のプライバシーをはじめ守秘義務を守ることを徹底して注意することが肝要である。写真撮影は施設の全景など人や個人の文字等が映らないアングルでのショットは良いが、個人情報映り込むようなものは当該の学校等の責任者に許可を得たものに限ることを徹底する。

G. 参観者によるミーティングの指導

- ・同じ授業場面や同じ児童・生徒の言動などを参観した者同士がお互いの受け止め方や評価の仕方に違いを生じるという経験はあらゆる実践現場で経験できることであるが、こうしたフィールドワークは、受講者同士が同じ外部の参観者であるため、同じ水準の目線に立つことになり、勤務校での意見交換では気付けない（発言しにくい）ことにも意識化されて議論が深まる場合が多い。それゆえ、参加者同士の対話の場を重視したい。
- ・フィールドワーク先に選ぶ教育現場は、一般的な学校にはない特色を有したり、多くの人にとって未知の部分有したりする学校等になるケースが多くなる。従って、それまでの自身の教育観や学校観が更新されたり、自身の既存の教育観や学校観ではそのフィールドの本質を理解できなかつたりする。そこで、参観者が自分の中に生じた違和感や固定観念に気付いていくような対話の場が必要となる。できれば、一通り参観した後に参観者同士が率直に意見交換できるようなミーティングの時間を設定したい。

H. フィールドへのフィードバック

- ・ 参観を受け入れてくれたフィールド先に対しての一番のお礼は、参観から学んだことや感想等を現場にフィードバックすることである。該当の学校等が自前のアンケート用紙などを指定している場合はその書式に従って、参観者それぞれにコメントを書かせることになるが、その場合はそのコメントをそのままカメラで撮影させて転送させて提出させることを推奨する。研修主催機関側であらためてふり返しシートのようなものを書かせる場合でも、フィールドの現場に参観者が書き置いてくる感想等について概要を把握しておく必要がある。
- ・ フィールドワークの教育的意義は、リフレクションにあるといっても過言ではない。自分が訪れた教育現場から学べることは何か、自分の教育観を揺るがした刺激の意味はどこにあったのか、自分がその現場の当事者だったら何をどう実践するのか、同じ事実を観た参観者はどう感じたのか…、などと自分自身を問い直すきっかけを与えてくれる体験にもなるのがフィールドワークである。参観者同士の対面的演習の場を用意できることが理想であるが、そういう条件を設定できない場合には、オンライン上のテキスト同士のやりとりやテレビ会議等のツールを利用するほか、参観者だけが読み書きできる e-Learning サイトでの掲示板等を活用して、受講者同士の学びを継続させ、深めていくしくみを提供することも有効である。

なお、参観後のリフレクションシートはできるだけ条件設定や項目を設けず、それぞれの自由な観点で独自の表現で書くことを求めた方がよいと思われる。言葉に外化した思いを対面型の演習の場で語り合わせる事が理想的であるが、文字になった参観者それぞれの受け止め方を相互理解するだけでも教育効果が上昇した事実がある。

本プロジェクトでは、教職員支援機構からの研究助成を得て、フィールドワークの移動手段としてジャンボタクシーや貸切バスを多用したため、復路（帰路）では車内で感想発表会をすることができた。そのため、戻ってから一週間以内に提出させた参観感想シートには、一緒に参観した仲間の声に影響を受けたと思われるコメントもみられた。

こうして提出させたリフレクションシートを取りまとめ、お礼状と共に資料提供して、参観者側から映った実践の意味を、参観を受け入れてくれたフィールド先へ送っているが、こうしたフィードバックは実践現場のリフレクションを活性化させることにも繋がる。

◎リフレクションを促進させるために

- ・ 指導者がフィールドワークを引率した際に参観者のリフレクションを深める手立てとして、あるいは事実記録の水準のコメントから離れられない参観者にリフレクションを促したいと考える場合、これまでの本プロジェクトの経験知から以下のような言葉掛けが有効であると考えられる。

★あなたはどう感じたのか

★なぜそう感じたのか

★あなたが見つめた対象（教員／子ども）はどう感じていると思うか

★なぜそう思うか

★フィールドワークに来る前と今では、あなたの中で変化が起きたか

実施概要：【フィールドワークの実際】

①授業研究の先進校－その１－ 富山市立堀川小学校

2018年6月15日（金） 富山市立堀川小学校

1. 行事名・授業名（責任者）

「特色ある教育課程の編成と評価」（伏木／市川／鎌倉）

* 富山市立堀川小学校 の平日の通常授業参観

2. 日時・集合時間・会場

2018年6月15日（金） 8:00 堀川小学校玄関脇

※貸切バス利用の人は 信州大学教育学部M館入口前 5:00（時間厳守）

3. 参加者 18名

（1）教職大学院のフィールドワークの選択者 17名

・戸塚 拓也 ・市川 大輔 ・小林 寿英 ・清水 貴夫 ・白井 敬 ・原 洋平
・田代 佑夏 ・白鳥 勝教 ・井出 幸輔 ・大畑 健二 ・田中 聡 ・北原 大介
・勝山 優子 ・小玉 尚宏 ・徳武 育 ・五味 夏海 ・阿部将樹

（2）引率教員 1名

・伏木 久始

4. 学生の持ち物

筆記用具 資料代（2,000円） 昼食（持ち込み） 上履き

5. 主な日程

（*5:00 大学キャンパス発）

8:00 堀川小学校玄関脇 ※自家用車で参加も可能 ⇒ 駐車スペース駐車

8:10 ご挨拶 → 「朝活動」～「くらしの時間」の参観

8:50～15:30 終日授業参観と授業者との協議

15:30～16:30 振り返りの会（予定）

16:30 解散予定

20:00 教育学部にバス帰着予定

6. 移動等に関する注意事項

* 大学発→堀川小（往復）の貸切バスを利用します。

* 自家用車で参加する人はくれぐれも安全に注意してお願い致します。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始（N310：内線 4220） hfusegi@shinshu-u.ac.jp

※緊急の際は、伏木の携帯電話番号 [REDACTED] にご連絡ください。

②授業研究の先進校ーその2ー 奈良女子大学附属小学校

2018年6月9日(土) 奈良女子大学附属小学校

1. 行事名・授業名(責任者)

「特色ある教育課程の編成と評価」(伏木/市川/鎌倉)

*奈良女子大学附属小学校 学習研究集会

2. 日時・集合時間・会場

6月8日(金) 22:50 信州大学教育学部M館入口前 /24:00 松本キャンパス正門前発

◆6月9日(土) 01:10 駒ヶ岳SA / 8:00 奈良女子大学附属小学校正門前

*現地集合も認めます。最寄駅は近鉄奈良線の「学園前」駅(徒歩8分)です。車乗り入れ禁止。

3. 参加者

*学生15名: 別紙名簿参照

4. 学生の持ち物

筆記用具 上履き 昼食当日朝注文可

資料代 現職教員 2,500円/ストレートマスター 1,500円

5. 主な日程

6月8日(金) 22:50 教育学部正門前発/24:00 松本キャンパス正門前発

→ 途中休憩(および仮眠して)奈良へ

◆6月9日(土) 8:30 奈良女子大学附属小学校正門前

8:30 受付

9:00~9:20 <朝の会>

9:35~10:20 公開学習① 低学年の授業参観

10:35~11:20 公開学習② 高学年の授業参観

11:35~12:20 公開学習①の協議会

<昼食休憩>

13:20~14:05 公開学習②の協議会

14:20~15:40 全体会<シンポジウム> 『主体的・対話的で深い学び』をつくる

*奈須正裕先生(上智大学) & 奈良女小職員等

16:00 退校予定 バス出発→

<途中夕食休憩> ※伏木は帰路別行動(翌日は大阪教育大学)です。

22:20 松本地区到着予定

23:30 教育学部キャンパス帰着予定

6. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始(N310:内線4220) hfusegi@shinshu-u.ac.jp

※緊急の際は、伏木の携帯電話番号 [REDACTED] にご連絡ください。

③授業研究の先進校ーその3ー 諏訪清陵高等学校附属中学校

2018年10月2日(火) 諏訪清陵高校附属中学校

1. 行事名・授業名(責任者)

「特色ある教育課程の編成と評価」(伏木/市川/鎌倉)

* 諏訪清陵の平日の通常授業の参観と共同授業研究会

2. 日時・集合時間・会場

2018年10月2日(火) 9:20 諏訪清陵高校附属中学校そばの高速バス無料駐車場集合

※学用車利用の人は 信州大学教育学部M館入口前 7:20 集合

3. 参加学生 7名

・吉澤 匠 ・勝山 優子 ・市川 大輔 ・小玉 尚宏
・阿部 将樹 ・五味 夏美 ・赤羽 晋治

4. 学生の持ち物

筆記用具 昼食(持ち込み) 上履き

5. 主な日程

(*7:30 大学キャンパス発)

9:20 諏訪清陵高校附属中学校そばの高速バス無料駐車場集合

9:30 学校正面玄関

9:35~ 9:55 学校概要の説明(小池副校長先生)

10:05~11:10 授業参観①

11:20~12:25 授業参観②

12:25~13:00 (昼食休憩)

13:05~14:10 授業参観③

14:20~15:25 授業研究協議Ⅰ<授業者を囲んで>

15:25~16:05 教職大学院メンバーでの授業研究協議

16:10~17:00 授業研究協議Ⅱ<研究主任を囲んで>

17:10 解散予定

6. 移動等に関する注意事項

*学用車を手配します。

*自家用車で参加する人はくれぐれも安全に注意してお願い致します。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始(N310:内線4220)

hfusegi@shinshu-u.ac.jp

※緊急の際は、伏木の携帯電話番号 [REDACTED] にご連絡ください。

④授業研究の先進校－その４－ 伊那市立伊那小学校

2019年2月2日（土） 伊那市立伊那小学校

1. 行事名・授業名（責任者）

「特色ある教育課程の編成と評価」（伏木／市川／鎌倉）

2. 日時・集合時間・会場

2019年2月2日（土） 学用車 6:00 教育学部M館入口前
6:05 出発
8:20 伊那市立伊那小学校 集合

3. 対象学生（7名＋勤務校から申し込んだ現職院生）

・長坂 育美 ・松本 奈月 ・徳武 育 ・五味 夏海
・米山 聡 ・田中 聡 ・小玉 尚宏

4. 学生の持ち物

筆記用具 上履き

*昼食は各自で用意。学校に昼食を注文することもできます。

5. 主な日程

6:00 教育学部キャンパスM館入口前・集合
8:10 伊那市立伊那小学校
8:35 自由参観（全学級公開）
9:20 授業者との懇談
9:55 開会行事～研究発表
10:45 共同参観（「総合活動」の各学年代表学級公開）
11:30 昼食
12:25 研究協議（分科会）
14:05 学習発表
14:45 シンポジウム
16:15 閉会行事
16:30 解散

6. 移動等に関する注意事項

*各自自家用車での移動はくれぐれも安全に注意してお願い致します。

*同乗希望者：往路は伏木が伊那小学校まで送り届け、復路は米山さんが大学まで送ります。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始（N310：内線 4220） hfusegi@shinshu-u.ac.jp

⑤義務教育学校ーその1ー 信濃町立信濃小中学校

※このフィールドには平成30年度は学生が個々に出かける形態をとったため、本稿では教職大学院初年度の平成28年度に実施したフィールドワークの資料を代わりに掲載する。

2016年10月17日(木) 信濃町立信濃小中学校

1. 行事名・授業名(責任者)

「特色ある教育課程の編成と評価」(伏木・市川)

2. 日時・集合時間・会場

2016年10月17日(月) 11:30 教育学部 N310 伏木研究室前集合

※12:30 信濃小中学校玄関前に直接集合しても結構です。

3. 対象学生

このフィールドワークの選択者14名

・池上 航 ・齋藤 優 ・尻無浜由衣 ・升内由依 ・丸山友紀 ・飯島政昭 ・笠原大弘
・関谷北斗 ・鶴田恵市 ・渡辺祐一 ・中田雄大 ・矢野 司 ・徳永吉彦 ・中村祐介

4. 学生の持ち物

筆記用具 上履き 資料代500円 (昼食は各自で受付前に済ませておく)

5. 主な日程

11:30	教育学部 N310 伏木研究室前 集合 / (12:30 現地集合も可) *学校の概要説明(資料配付15分程度)	
12:30~12:45	信濃小中学校: 学校公開受付開始	
12:45~12:55	開会行事	
12:55~13:20	実践報告「より専門的な学び」と「学習意欲の高まり」を生み出す教育活動	
13:30~14:15	初等部(1~4年) 授業公開	} 並行して授業参観
13:30~14:20	高等部(5~9年) 授業公開	
14:35~14:55	アトラクション(全校音楽集会)	
15:00~15:30	意見交換会	
15:40~16:40	講演会(伏木): 「義務教育学校」創成期の実践に期待されること ~ふるさと学習の成果と次期学習指導要領に向けた課題~	
16:40~16:50	閉会行事	
17:00~17:30	ふり返り	

6. 移動等に関する注意事項

*学用車(2台)に同乗しての移動も歓迎しますので希望者は10月10日(月)までに要返信。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始(N310:内線4220) hfusegi@shinshu-u.ac.jp

2018年12月7日(金) 大町市立美麻小中学校(義務教育学校)

1. 行事名・授業名(責任者)

「特色ある教育課程の編成と評価」(伏木/市川/鎌倉)

2. 日時・集合時間・会場

2018年12月7日(金) 11:20 美麻小中学校会議室集合

※学用車に同乗する人は10:00M館入口前集合・出発

3. 参加予定者 14名

(1) 教職大学院・大学院生 9名

・吉澤匠/・北原大介/・椛島政彦/・勝山優子/・原由佳/・小山啓太 …現職教員 6名
・徳武育/・長坂育美/・松本奈月 …ストレートマスター3名

(2) 教育学部・学部生 3名

・西村 真衣/・小林 有菜/・田中 愛美

(3) 引率教員 2名

・伏木 久始/・青木 一

4. 学生の持ち物

筆記用具 上履き 昼食

5. 主な日程

10:00 教育学部出発

11:20 美麻小中学校・会議室集合

11:30 学校概要の紹介

●副校長より

※昼食および伏木のミニ講義

13:00 美麻コミュニティ・スクールの説明

●地域コーディネーター前川さんより

13:45 総合的な学習『夢の時間』の発表会 (学校運営委員、関係者も参観)

15:30 参観後のふりかえり

16:30 解散予定

17:50 教育学部帰着(学用車)

6. 移動等に関する注意事項

*自家用車での移動の際にはくれぐれも安全に注意してお願い致します。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始(N310:内線4220) hfusegi@shinshu-u.ac.jp

※緊急の際は、伏木の携帯電話番号 [REDACTED] にご連絡ください。

2018年5月31日(木) 栄村立栄小学校秋山分校および栄小学校

1. 行事名・授業名(責任者)

「へき地・小規模校の教育実践」 (伏木/宮島)

※栄村教職員会「学力向上研修会」

2. 日時・集合時間・会場

2018年5月31日(木) 栄村立栄小学校秋山分校 9:30～

※ジャンボタクシーは信州大学教育学部 M館入口前配車

7:00 M館入口前集合 (時間厳守)

3. 参加者 計10名

(1) 教職大学院学生8名

・清水 貴夫 ・小玉 尚宏 ・長坂 育美 ・阿部 将樹
・五味 夏海 ・徳武 育 ・松本 奈月 ・勝山 優子(道の駅ふるさと豊田)

(2) 引率教員2名

・伏木久始 ・宮島 新

4. 学生の持ち物

筆記用具 上履き *天気が良ければ水着等(河原の中に入りますので)

*昼食は持参せず秋山郷でしか食べられない郷土料理でランチ・ミーティングとします。

5. 主な日程

7:00 信州大学教育学部 集合・出発(須坂長野東I.C入口→豊田飯山IC出口経由)

9:30～10:40 栄村立栄小学校秋山分校 施設および授業参観

11:00～12:00 秋山郷の散策/昼食休憩…栄小学校へ移動(移動の所要時間60分)

13:00 栄村立栄小学校着

13:25～14:10 5校時 公開授業:5年<秋山分校と遠隔授業を含む>

14:35～15:25 授業研究会

15:35～16:35 研修会:講師 伏木久始

17:00 移動～ ジャンボタクシーおよび学用車

19:00 大学着

6. 移動等に関する注意事項

*ジャンボタクシーの他に、学用車に分乗します。

*教育学部キャンパスから中山間地の秋山分校まで、山道も含めて99kmの長距離となります。秋山分校から栄中学校までは約32km(1時間)です。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始(N310:内線4220) hfusegi@shinshu-u.ac.jp

※緊急の際は、伏木の携帯電話番号 [REDACTED] にご連絡ください。

2018年6月22日(金) 木曾町立三岳小学校 ※中山間地域リーディングスクール

1. 行事名・授業名(責任者)

「へき地・小規模校の教育実践」(伏木/宮島)

2. 日時・集合時間・会場

2018年6月22日(金) 木曾町立三岳小学校 10:30

※学用車に乗る人は信州大学教育学部M館入口前 7:20(時間厳守)

3. 参加者 計8名

(1) 教職大学院学生6名

・戸塚 拓也 ・清水 貴夫 ・勝山 優子 ・長坂 育美 ・阿部 将樹
・小林 寿英(現地集合)

(2) 引率教員2名

・伏木久始 ・宮島 新

4. 学生の持ち物

筆記用具 上履き 昼食(途中で購入可)

5. 主な日程

7:20 信州大学教育学部 集合・出発(長野 I.C 入口→木曾 IC 出口経由)

10:10~10:40 学校概要説明・施設参観

10:50~11:35(第3校時) 1、2学年 体育「すもう」(体づくりの運動遊び)

※異学年集団による学習 校庭すもう場(雨天の場合は体育館)

11:40~12:25(第4校時) 4学年 理科「ものの体積と温度」

※单元内自由進度学習 理科室 等

5学年 社会「自動車工業」

※单元内自由進度学習 5学年教室 等

12:30~13:10 昼食

13:15~13:45 全学年 おんたけ学習 ※無学年制自由選択式ドリル

13:50~14:30 意見交換会(多目的ホール)

14:50 移動~ 三岳小出発

17:30 大学帰着予定

6. 移動等に関する注意事項

*ジャンボタクシーと学用車の2台に分乗します。

7. 本計画に関する問い合わせ

伏木久始(N310:内線4220) hfusegi@shinshu-u.ac.jp

※緊急の際は、伏木の携帯電話番号 [REDACTED] にご連絡ください。

1. 「特色ある教育課程の編成と評価」(必修科目:2単位)

- 特色ある教育課程を編成してユニークな教育実践をしている学校の具体的な取り組みを通して、教育課程の編成に関する理論を深め、「教育課程の特例申請」文書を作成できる力量を身につける。

2. 「へき地・小規模校の教育実践」(選択科目:1単位)

- 中山間地域を中心とするへき地・小規模校の少子・人口減少問題とそれに直結する学校教育の課題を理解するとともに、小規模校ならではのユニークな教育実践についてフィールドワークを通じて具体的に理解する。

◎フィールドワークはこの他の授業でも実施しているが、「特色ある教育現場」を選んで行っているのは以上の2科目である。

◎フィールドワーク参加申込フォーム

申込日	学籍番号	氏名	フィールド(学校名)
参加日	交通手段(自家用車/学用車/貸切バス etc)		その他(途中参加/現地集合/同僚を同伴希望 etc)

参加申込

フィールドワーク参観レポートフォーム

提出日	受理日	レポートタイトル
フィールドワークを通して学べたこと・考えたことなど		
このフォームは eALPS にアクセスしてダウンロードしてください。		

感想提出

平成30年度のフィールドワークⅠ



表 1. 【特色ある教育課程の編成と評価】（2 単位必修科目）のフィールドワーク

No	月日（曜）	フィールド	概要
①	6/9（土）	奈良女子大学附属小学校	学習研究集会（公開研究会）への参加
②	6/15（金）	富山市立堀川小学校	ふだんの授業の参観＋研究協議
③	9/10（月） ～14（金）	つくば・教職員支援機構	「カリキュラムマネジメント指導者養成研修」受講
④	10/2（火）	諏訪清陵高校附属中学校	ふだんの授業の参観＋研究協議
⑤	11/2（金）	奈良女子大学附属小学校	幼小一貫教育・「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発』＜4年次＞
⑥	11/14（水）	須坂市立日野小学校	上高井郡教育会の研究授業（総合）
⑦	11/16（金）	グリーンヒルズ小中学校	オルタナティブスクールの授業参観
⑧	12/7（金）	大町市立美麻小中学校	義務教育学校／コミュニティースクール／総合的な学習の時間の発表会
⑨	1/22（火）	長野市若里市民文化ホール	学力向上フォーラムに参加
⑩	2/2（土）	伊那市立伊那小学校	公開研究会に参加
	2/2（土）	諏訪清陵高校附属中学校	課題研究発表会（諏訪清陵高校 SSH）に参加

平成30年度のフィールドワークⅡ



表 2. 【へき地・小規模校の教育実践】（1 単位選択科目）のフィールドワーク

No	月日（曜）	フィールド	概要
①	5/31（木）	栄村立栄小学校＋秋山分校	栄村教職員研修会に参画
②	6/22（金）	木曾町立三岳小学校	異学年混合による学習指導
③	7/6（金）	辰野町立川島小学校	講演会と学校視察
④	7/13（金）	栄村立栄小学校	へき地教育振興協議会大会に参加
⑤	8/9（木）	長野県総合教育センター	『少人数の良さを生かす授業』受講
⑥	10/11（木） ～12（金）	京都府内の各小中学校	第 67 回全国へき地教育研究大会参加
⑦	10/24（水）	飯田市立上村小学校	複式授業の公開研究会参加
⑧	11/9（金）	飯田市立上村小学校	中山間地域リーディングスクールのテレビ会議方式合同授業研究会
⑨	11/10（土）	さんとびあ飯田	飯田市保育協会主催の講演会補助
⑩	12/7（金）	大町市立美麻小中学校	義務教育学校／コミュニティースクール／総合的な学習の時間の発表会

【参加学生の感想】

(1) 堀川小学校

- ・堀川小学校の授業は、初発の子どもの語りからスタートします。語り始めの子どもの学びを軸にして、集団で考えをつなげ合いながら、最後にはその子どもの学びが更新されていました。
- ・題材にどっぷりとはまり込む教師の姿と深い教材研究を土台とした授業を見せていただきました。このような情熱や熱意は、教師の資質としてとっても大切なことなのだと考えさせられました。
- ・子どもの語りを可視化し、それを新たな題材にすることで、子どもたちは語りをつなげながら自分の考えや思いを深めていました。個の思いが、いつの間にかクラス全体の思いに昇華していき、さらにそれぞれの子どもが考えを更新していきました。くらしの時間が自分を見つめ直す大切な時間となっていました。
- ・自分の願いや疑問に思ったことを個人学習でとことん追究し、自分の考えを一人ひとりがしっかりと持っている…
- ・自分の意見を基に、他人の意見を聞いて意見を混ぜ合わせ、新しい視点を得る場であると同時に、対話を通して表現方法や人とのつきあい方、感情のコントロールなどを学ぶ場でもあるのではないかと感じました。
- ・朝トレも、朝活動も、くらしの時間も、学級という組織としてではなく、中心に流れているのは個がどのように育つのかということであった。
- ・（自分たちは）過去の偉大な先輩方の研究に学ぼうと実践を積み重ねているが、研究の冊子に載っている部分にばかり注目しての研究になっていないだろうか。その子には、その子のくらしがあって、冊子に載っていないくらしが山のようにある。
- ・研究のための研究をしているつもりは全くなかったが、本当の研究は、楽しく、職員を元気にするのではないかと思う。
- ・堀川小学校の子どもたちの生きる姿を参観させていただき、これまでの私の授業観を問わざるを得ない思いがわいてきました。
- ・自分の授業観にかかわって欠けている点がいくつか見つかりました。それは、共通の学習問題、共通の学習課題、共通の学習活動を大前提としている授業構想でした。
- ・活動の内容やテンポ、関心が持続するような学習材をいかに提示するかに力を注いでいたのではないか。授業にかかわる課題がふっと見えた1日でした。
- ・仲間の思いを聴いてみたくなるくらい自分の追究をもっているかどうかが集団一斉授業の決めてなのではないかと思った。
- ・集団過程に挑む前の個の追究の高まりを支える堀川小学校の先生方のお話が強く心に残っています。

(2) 諏訪清陵高校附属中学校

- この教職大学院に入る目的の一つであった「質の高い授業を参観する」という夢がひとつ実現した。
- 今まで「憧れの教師」という存在があまりいなかった自分にとって、初めて感じた「憧れ」だったように思う。
- 中高一貫校の参観は初めてだったので、中学と高校との連携がどのようなものであるのか興味があった。
- 小、中、高、大と学びの段階を経ても、どの成長過程でも探究的な学びを大事にした授業が実現したら、将来の社会もきっと明るい未来へと動き出すかもしれない。自分たちは未来の社会を作る人材育成をしているのだと改めて感じ、身が引き締まる思いがした。堀川小学校の授業は、初発の子どもの語りからスタートします。語り始めの子どもの学びを軸にして、集団で考えをつなげ合いながら、最後にはその子どもの学びが更新されていました。
- 教師が教え、生徒が習うという構図はありません。先生の問いかけをもとに生徒が考え、内容となる知識を理解していました。授業後の研究会でも、「STが授業を進める」ことや「先生、楽しくないでよ！」と生徒が先生とつくる授業を理解している様子を…
- 次の時間の「予習」ではなく「助走」というところも、自分にとってはとても斬新な考え方であり、保科先生の授業からはとても納得できる表現だと思いました。また、15分の使い方や考え方を、教科性を基に教科内で話し合い、その意味付けを理解した上で実践されていることや、先生方個人個人がそれぞれで15分の意味づけを行い実践されていることが分かりました。
- 「こちらが問いを与えない、子どもたちが問いをつくる」「子どもの声に耳を傾ける、教師がしゃべらない」「主体的・対話的で深い学びとは何かを教科内で話し合う」…<学べたこと>
- 65分授業を展開しているため、学びを深める活動に十分時間が使えるだけでなく、余裕を持って導入や振り返りを行うことができる。学習内容が深まりやすいため、本時のねらいを達成するだけでなく様々な学習と絡めながら豊富な学びを展開できると感じた。
- 教科横断的な授業を作っていく観点から見ても、社会の授業に理科の内容が登場したり、美術の教科書を広げて絵で表現する活動があったりと、学びはこうやって広がっていくのかと、本来の学びのあるべき姿を見せていただいたように感じた。

※以上、2つのフィールドでの学生の感想の中から、個人名やプライバシーに関わる記述を割愛して引用したが、どのフィールドワークでも同様に学生たちの熱心な参観の様子が推察される。

なお、フィールドワークに参加した学生有志を対象に面接調査を行ったが、質問紙での回答と大きな違いはなく、有意義であったことを具体的に語る学生たちが多かった。

【DVD教材の概要】

※本報告書では、編集作業で用いた絵コンテを掲載する。

長野県教育委員会をはじめ関係機関には完成版のDVDを無償配布する。

<p>映像教材シリーズ①</p> <h2 style="text-align: center;">フィールドワークによる学び</h2> <p style="text-align: center;">信州大学・教職大学院</p>	<h2 style="text-align: center;">CONTENT</h2> <p>I プロローグ</p> <p>II フィールドワークの実際</p> <p>【授業研究の先進校】 ①富山市立堀川小学校 ②奈良女子大学附属小学校 ③諏訪清陵高等学校附属中学校 ④伊那市立伊那小学校</p> <p>【義務教育学校】 ⑤信濃町立信濃小中学校 ⑥大町市立美麻小中学校</p> <p>【小規模校・少人数学級】 ⑦栄村立栄小学校秋山分校 ⑧木曾町立三岳小学校</p> <p>III エピローグ</p>
---	--

<h2 style="text-align: center;">プロローグ</h2> <p style="text-align: center;">何をどのように学ぶのか？ 学びをどのように生かすのか？</p>	<h2 style="text-align: center;">プロローグ</h2> <p>教職大学院でも基本は同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎主体的…… 自ら選択 ◎対話的…… 仲間と議論 ◎深い学び… 理論と実践の往還 <p>フィールドワーク ■ 授業研究の先進校 ■ 義務教育学校 ■ へき地・小規模校</p>
---	--

<h2 style="text-align: center;">フィールドワークの実際</h2>	<h3 style="text-align: center;">◆授業研究の先進校</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが生きる授業 ◎個の追究を中核とする授業 ◎探究的な学びを深める授業 <p>・こうした授業を追求する際のヒントが得られる現場へ</p>
--	--



①富山市立堀川小学校

教育目標
自主創造 ～くらしをみつめ 追究する子ども～

- 自らを見つけ、はたらきかける子ども
- 仲間を大切にし、思いやりのある子ども
- たくましい心と体をもち、何事にも挑戦する子ども

くらしづくりのための特色ある教育活動

毎朝の朝活動	
朝活動 朝の朝の活動に心を込めながら、自らの手で整える子ども	朝活動 ……自己選択
くらしの時間 対象を意図して整える心の時間を創る子ども	くらしの時間…(朝の会・聴き合い)
授業 各自が身につけようとする意図を持って取り組む子ども	授業中課題等の「ことば」との出会いも、自らの経験をもとに「まなび」の場とする。子どもが主体的に学び、仲間や先生と関わり合いながら学びを深めることにより、「一人一人の学び」を重視する。 「一人一人の学び」を重視する。授業終了後まで、各自の探究活動の場を確保して「探究活動」を促す。
自主活動 自主的に学びたい子どもを見つけ出す子ども	活動の時間と場が確保され、活動が継続的に促されることで、子どもが安心して自分の活動に取り組めるようになる。 活動の場でもっとも「まなび」が深まるように、その活動を支援していくことで、その場での活動が継続的に促されるようになる。 活動に活動の場を確保し、子どもが自分の活動に思いやりを持ち、責任をもって取り組むようになる。

朝活動のシーンの動画を2分ほど挿入します。

教育課程や教育活動の特色について説明を受ける

教育目標
自主創造 ～くらしをみつめ 追究する子ども～

- 自らを見つけ、はたらきかける子ども
- 仲間を大切にし、思いやりのある子ども
- たくましい心と体をもち、何事にも挑戦する子ども

くらしづくりのための特色ある教育活動

毎朝の朝活動	
朝活動 朝の朝の活動に心を込めながら、自らの手で整える子ども	朝活動 ……自己選択
くらしの時間 対象を意図して整える心の時間を創る子ども	くらしの時間…(朝の会・聴き合い)
授業 各自が身につけようとする意図を持って取り組む子ども	授業 ……一人追究と集団過程
自主活動 自主的に学びたい子どもを見つけ出す子ども	自主活動 ……放課後の個人追究





学校参観の日程

- 8:00～ 「朝トレーニングと朝活動」の参観
- 8:40～ 「くらしの時間」の参観
- 8:55～ 学校概況説明等
- 9:45～ 授業参観(2～5校時)
- 14:25～ 「くらしの時間」の参観
- 15:00～ 参観内容に関する懇談
- 16:00 終了

【参観受入期間】
 ・6月初旬～7月初旬/10月上旬～11月末/1月下旬～2月末

②奈良女子大学附属小学校

「生活即学習、学習即生活」(木下竹次:1912)

- ・しごと ……総合的な単元学習の形態 (生活科、総合的な学習の時間など)
- ・けいこ ……特定の目標に応じた分科的な学習形態 (各教科の学習)
- ・なかよし ……学級を越えた小集団による実践的学習形態 (特別活動 遠征)

奈良小の「朝の会」のシーンを1分ほど動画で…



動画1分ほど

教職大学院では毎年学生を連れて行きます！



③ 諏訪清陵高等学校附属中学校



諏訪清陵の中高一貫教育課程

学校	学年	期	名称	内容
附属中学	1	I	始める	6年間の基礎を固める。学習、生活習慣の確立。学ぶことの意義や方法の理解。集団づくりなどの基礎を形成。
	2	II	深める	深く学ぶ授業を中心とした活気のある生活。高い学力、広い視野、強い意志の養成。
	3			
清陵高校	1	III	広げる	中入生と高入生が切磋琢磨する中で、意識や行動を大きく広げる。高校3年間の基礎固め。
	2	IV	高める	自由な校風の様々な場面で自らを鍛え、仲間と共に高い志を実現する。高い学力、広い視野、強い意志の体現。
	3			

◆65分授業… 標準50分の授業時間を65分授業とする →授業設計も変化

◆附属中学校では、どの教科でも深く考え合う授業を追求しています。

◆高校ではSSH(スーパーサイエンススクール)の指定を受け、理数科目のみならず、あらゆる機会を生かして探究的な学びに取り組んでいます。



対話を通じた相互追究による深い学び

④伊那市立伊那小学校

「児童の教育は、児童にたちかえり児童によって児童のうちに建設されなくてはならない。そこからではない、うちからである。児童のうちから構成されるべきものである。」

(淀川茂重著「途上」より)



【ありし日の淀川茂重先生・杉崎昭先生】



伊那小学校の総合学習・総合活動

・1・2年 総合学習(各教科・道徳を含める)

題材：動物飼育・栽培活動・遊び・生活・年中行事など

領域：『自然・社会』、『言語』、『数』、『表現・運動』、『道徳』、『特別活動』という領域に整理し、子どもの興味・関心に総合的に学ぶ学習。

★：これとは別に「取り出し学習」を位置づけている。

・3～6年 総合活動(道徳・教科・特別活動と時数を区別)

内容：教科学習から発展したり、既習の知識・技能を総合的に活用したり、総合活動で必要になったことを教科学習で扱ったりする。

※教科学習と総合活動を無理に結びつけない



1年生が…
みんなで力を
合わせて牛の
飼い主になる
という体験!



“総合”の材

- ・風鈴
- ・木彫り皿
- ・パン作り
- ・森づくり
- ・蜜
- ・わたで作る
- ・竹細工
- ・点字
- ・気球製作
- ・米づくり
- ・和太鼓
- ・ヒツジ
- ・山羊
- ・子豚
- ・チャボ
- などなど…



公開学習指導研究会



◆義務教育学校

- 学校教育法の改正により小学校課程と中学校課程を一貫して行う学校。
- 2016年から新設され、少子化に伴って設置する自治体が全国に増加中。

- ◎小中一貫の教育課程に基づく教育活動の実践
- ◎中1ギャップを乗り越える生活指導や学習指導
- ◎教師の意識改革が求められる9年一貫の学校

- こうした教育実践を構想する学校づくりにヒントを得られる現場へ



⑤信濃町立信濃小中学校

9年生が1年生をエスコート

児童数減少に悩む五つの小学校と、すでに一校に集約されていた中学校を、ひとつの学校に統合して新設した町唯一の学校。

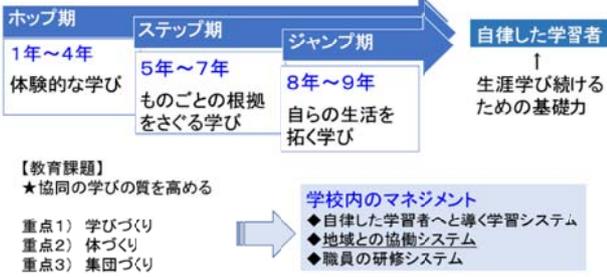
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
●入学式 1年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 2年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 3年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 4年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 5年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 6年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 7年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 8年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。	●入学式 9年入学式は、1人1人、先生から手紙を渡す。また、先生から手紙を渡す。

初等部 高等部



⑥大町市立美麻小中学校

美麻小中学校の教育課程



総合的な学習の時間／「夢の時間」(10時間)

動画：「夢の時間」



コミュニティ・スクールになって変わったこと

- ・ 地域の方が大勢学校に来るようになった。
- ・ 短時間で作業ができるようになった。
- ・ 学校がきれいになった。
- ・ 授業が変わり、生徒の学び姿勢が変わった。
- ・ 生徒の応用力、表現力、人間関係力が高まった。
- ・ 生徒、先生、親、地域の人の関係がよくなった。
- ・ 登校拒否が減った。
- ・ 地域活性化に役立った。
- ・ 移住、山村留学希望者から注目される。



コミュニティ・スクールとは・・・
住民がただボランティアをするために来る学校ではない

地域住民が、自分たちの学校として学校支援を行うことで子どもたちや先生たちと共に学び、**学校運営に参加することで、よりよい教育が実現するように住民と先生が子どもたちのために協働する学校**



前川 浩一 氏

平成22年～23年の学業、
現職 美麻小中学校校長
NPO法人理事長
美麻小中学校コミュニティ・スクール運営コーディネーター
大分県教育委員会生涯学習課長
美麻小中学校コミュニティ・スクール運営コーディネーター

◆小規模校・少人数学級

- ・少子・人口減少社会における僻地・小規模校の現状を理解し、少人数学級等の課題と工夫を参観する。
 - ◎少人数の条件を生かす授業
 - ◎少人数だからこそ実践できる授業
 - ◎地域社会のなかで学べる授業
- ・こうした教育実践を構想する学校づくりにヒントを得られる現場へ

栄村という地域



⑦栄村立栄小学校秋山分校



⑧木曾町立三岳小学校





エピローグ

学んだことは何かを振り返る
学びをどのように生かせるのかを考える

フィールドワークの意義

- ・ 先行研究の参照や文献調査による理解の限界を補う
- ・ その現場の当事者の立場で実践を考える
- ・ 自分なりの感性・センスを生かして「問い」をもち、問題解決を考える
- ・ 視野を広げ、教育観を問い直す

他人と自分では同じ対象をみても印象も進えば課題の見え方も異なるものです。フィールドワークに出かけてみることで、自分の立ち位置が変わり、新鮮な目を持ち、現場の事実を丁寧にみて、こうとする姿勢から、私たちの視野が広がり、その結果自らの教育観が更新されるのだと思います。

制作： 信州大学・教職大学院

※独立行政法人教職員支援機構の支援を受けて作られました。

3 フィールドワークの意義

新しい学習指導要領では、知識及び技能が習得されるようにすること、思考力、判断力、表現力等を育成すること、学びに向かう力、人間性等を涵養することが強調されている。特に「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくことが求められている。これは、教職大学院での学びも基本は同じではないかと考えた。フィールドを主体的に選択し、現場の事実在即して仲間と議論する対話的な学びを通して、理論と実践の往還を経た深い学びを目指すのである。信州大学・教職大学院では、実際にフィールドワークに出かける候補地として、授業研究の先進校や、小中一貫の教育課程をもつ義務教育学校や少人数という条件を強みに換えるべき地・小規模校などを対象としている。

さて、フィールドワークの意義をどのように説明できるだろうか。先行研究を参照したり、必要な文献資料を揃えて考察したりすることは大事な研究プロセスである。しかし、教育現場の問題は、文献でわかることには限界がある。それを補うために、フィールドに足を運んでその現場の現実の中で考えることも大切である。人から教えられた話や自分の思い込みイメージで判断するのではなく、その現場におかれた自分だったとしたらどう考えるのかという、当事者意識を強く持って考えることが必要である。

また、他人と自分では同じ対象をみても印象も違えば課題の見え方も異なるものであるから、自分なりの感性・センスを生かして「問い」をもち、自分なりの問題解決策のあり方を考える機会をもつことが大切である。そして、フィールドワークに出かけてみることで、自分の立ち位置が変わり、新鮮な目を持ち、現場の事実を丁寧にみていこうとする姿勢から、私たちの視野が広がり、その結果自らの教育観が更新されるのだと思う。

教育について語るとき、人々は過去の栄光や伝統にとらわれて、未来を生きる子どもたちの将来に無頓着になりがちではないだろうか？善意ではあっても、教師が過去に経験してきた授業方法を、未来を生きる子どもたちの学び方にそのまま当てはめてはいないだろうか？これから学ぼうとする者の前に立つ私たちは、常に広い視野から状況判断する努力を欠かさず、異なる考え方に寛容となり、未来を生きる子どもたち一人ひとりの生き方に力を授けられるように、学び続ける謙虚な教師でありたいものである。

4 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

(1) 連携を推進・維持するための要点

本プログラムはフィールドワークによる学びを、教職大学院で実践してその有効性が確認された上で、有効だと思われる取り組みを教育委員会が企画する現職教員対象の研修講座に取り込んでいくという方向性をもって取り組んでいる。

そのための連携を推進していくためには、県が策定した教員育成指標においてどのような資質能力を高めるものと位置づけられるのかを、フィールドごとに意味づけ、そのねらいを明確にしていく必要がある。

また、フィールドの選択において、県としてのニーズと、教職大学院としての教育的意図との整合性を高めていく必要性が生じてくる。そのあたりの議論を展開し深めていくことが今後の課題でもある。

(2) 連携により得られる利点

本プログラムは、長野県教育委員会が企画・運営する研修講座と信州大学・教職大学院における履修科目の単位互換の可能性をさぐる取り組みの一つである。教職大学院の共通必修科目に位置づけられている教育課程領域の内容として、本学では「特色ある教育課程の編成と評価」(2単位)という科目を設定しているが、この授業では頻りにフィールドワークを企画し、学生はその中から一定数の外部教育機関にフィールドワークに出かけることを義務化している。このフィールド先の選定及び現地での演習やそのリフレクションをトータルにユニット化し、教育委員会主催の研修講座のメニューに入れることで、履修単位のポイントとしてカウントするしくみが構想できる。このことは将来的には単位互換に貢献すると考えられる。

ただし、教職大学院の授業としては1年間の受講期間に3校(3種類)以上のフィールドワークを課しつつ、教育課程全般の講義や特色ある学校の事例を学ぶ機会と並行してフィールドワークを経験し、最後には教育課程の特例申請案を課題レポートとして提出することをゴールとしているのに対し、教育委員会が企画する研修講座にフィールドワークのユニットを取り入れた場合、どれくらいの期間に関連する専門知識を学び、別のフィールドワークをどれだけ求めるのかという調整を図る必要がある。単位互換のためには双方の内容水準をある程度共通認識しておく必要があり、そのための担当者(責任者)間の議論が待たれる。

5 その他

[キーワード]

フィールドワーク、 特色ある実践の参観、 単位互換のユニット、 リフレクション
映像教材、 学校参観、 義務教育学校、 へき地・小規模校

[人数規模]

※「本事業の研修対象者として1日でも参加した人数の総数を次の記号の中から選ぶこと。補足事項があれば、() 内にご記入すること。

- A. 10名未満 B. 11～20名 **C. 21～50名** D. 51名以上

補足事項 (1回のフィールドワークは5～20名程度の場合まで各回の人数差がある)

[研修日数(回数)]

※「受講者が何日間 (又は何回) の研修を受講したかを次の記号の中から選ぶこと。補足事項があれば、() 内に記入すること。

- A. 1日以内 **B. 2～3日** C. 4～10日 D. 11日以上
(1回) (2～3回) (4～10回) (11回以上)

補足事項 (フィールドワークは3箇所以上を義務づけている)

※本プロジェクトは平成30年度独立行政法人教職員支援機構委嘱事業である
教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業の研究助成を受けて
取り組まれた実践研究であり、この支援がなければこうした実践研究の成果
を出すことは困難であった。同機構には心より感謝申しあげたい。

本研究の成果を基礎として、今後の大学院教育と教育委員会との連携事業を
さらに発展させていけるよう、今後も継続的にこのプロジェクトをすすめて
いく予定である。

【担当者連絡先】

●実施者 ※申請する大学名又は教育委員会名を記載すること

実施者名	国立大学法人信州大学	
所在地	〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1	
事務担当者	所属・職名	教育学部・主査
	氏名（ふりがな）	若林 美恵子（わかばやし みえこ）
	事務連絡等送付先	〒380-8544 長野県長野市西長野6の口
	TEL/FAX	026-238-4036 / 026-234-5540
	E-mail	edu_shien@gm.shinshu-u.ac.jp

●連携機関 ※共同で実施する機関名を記載すること

連携機関名	長野県教育委員会	
所在地	〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2	
事務担当者	所属・職名	教学指導課・課長
	氏名（ふりがな）	佐倉 俊（さくら しゅん）
	事務連絡等送付先	〒
	TEL/FAX	026-235-7433 / 026-235-7495
	E-mail	kitazawa-yoshitaka-r@pref.nagano.lg.jp